「何を説くべきか、考えるのが教師」を実践できたかな？

「自分は子どもたちに何を説くべきか、それを考えるのが教師である。それは教師の第一歩であり、最後であろう。」という言葉がある。

半期の授業を終え、学生から最終授業の後、次のような感想（抜粋）に類する感想文をたくさんいただくと、教師として何を説くべきかを考え続けながらの授業が出来たと思っていいのかな～？

・私は、この阿部先生の授業が大好きです。こんなにも“生きる事・人・命・関わり合い”を深く語って下さる方は初めてでした。毎回、どんな授業内容でも、必ず結びつくのは“生きる”ということだなあと思います。自分に足りないないモノ、心惹かれるモノが、阿部先生の授業にたくさん詰まっていたからこそ、興味を持ち、大好きになったのだなあと、そう感じます。正直、日々、「生きるって難しい…」と、涙したり悩んだりしています。自分、人の関わり合いなど、考える内容や事情は様々ですが、阿部先生の授業から、次へ向かうためのステップや、何かしらのヒントを頂いている気がします。その度に、自分を叩いたり見つめたり、少しずつ歩んで来ていると思えます。本当に、今までありがとうございました。阿部先生も、阿部先生の授業も大好きです。

・授業では、今まで感じたり考えたりしなかったこともたくさん考えました。保育士としての前に、どんな人間にならなければならないのか、人生につまづいた時にどうやってプラスにもっていくか……人として大事な事をたくさん教わりました。ビデオを見ることで現実がわかってよかった。けど、ビデオを見てショックを受けて保育の道に進みたくなくなった時期もありました。それでは、逃げているのだと考え直して、今の勉強でムダなことはないと思えるようになりました。自分の中で何かが変わったと思います。ありがとうございました。辛いことがあったらメールします。お体に気をつけて、いつまでも明るいあべさんでいて下さい。

・１５回の授業、とても楽しかったです。「（感想文、書き終わらない）まだの人、急がなくていいからね。」とか、そういう阿部さんの優しい一言が、みんなを助けているんだと思いました。

・他の授業と違い、先生は保育士としての技術や専門知識だけでなく、人としてのあり方も教えてくださるので、先生の授業は毎回興味深かったです。

・自分達のなる保育士のすごさをいっぱい知る事ができ、絶対に保育士になろうと思いました。

（2006 年 9 月 1 日　記）